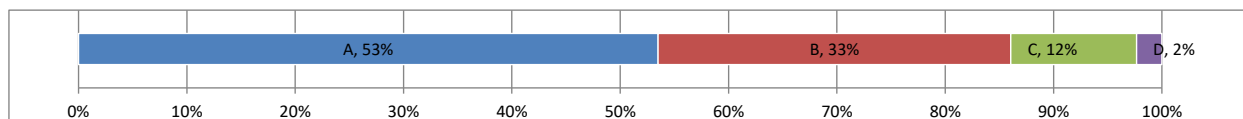
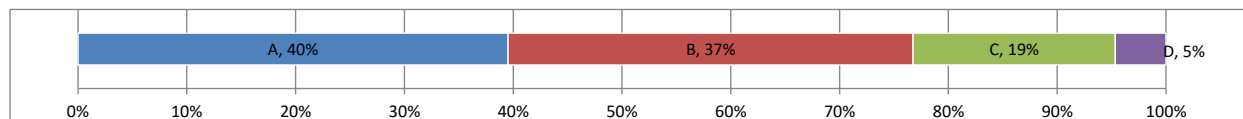


令和5年度 学校自己評価アンケート集計表 (保護者)

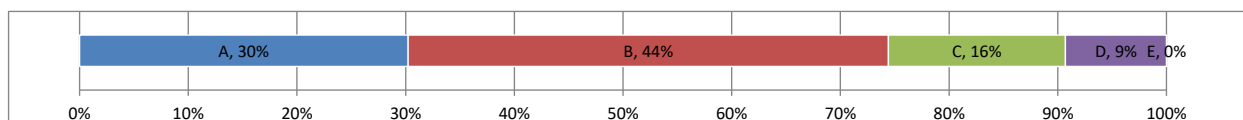
1 保護者と学校とで作成した個別の指導計画は、お子さんの課題に応じた指導に生かされていた。



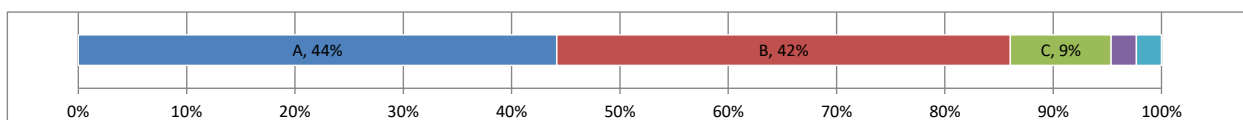
2 お子さんは、その場に応じた話し方やあいさつなどを心掛けるようになってきた。



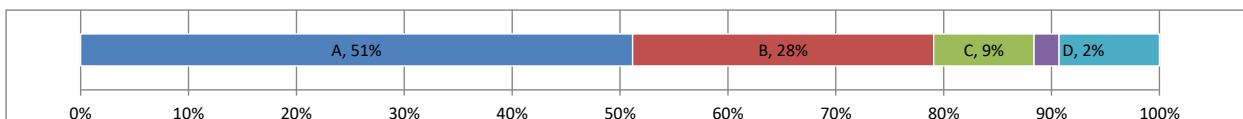
3 お子さんは、自分のきこえについて理解し、必要な情報を自分で集めるようになってきた。



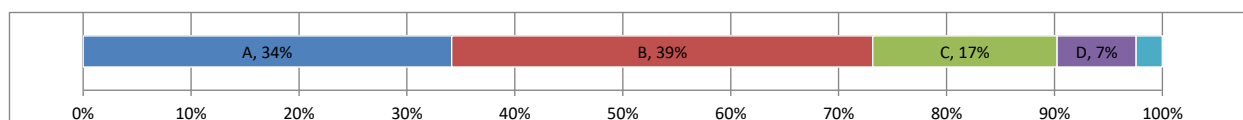
4 お子さんは、周囲との関わりの中で、自分のやりたいことを伝えたり、自分の役割を果たそうとしたりするようになってきた。



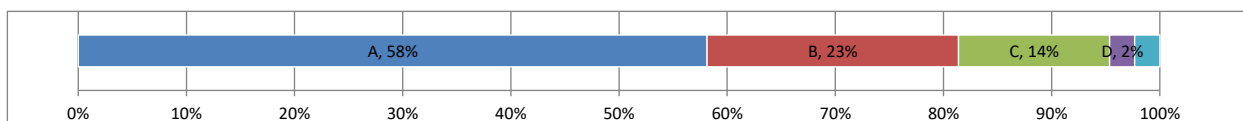
5 お子さんは、学校に行くことを楽しみに登校したり、学んだことを様々な場で生かそうとしたりしていた。



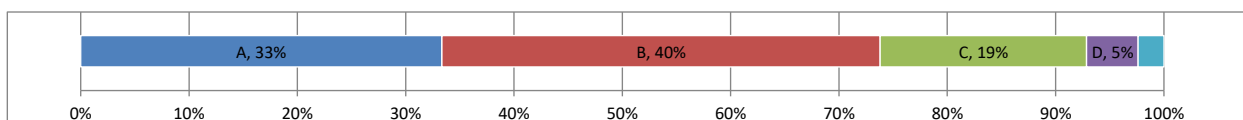
6 お子さんは、授業で、「分かった」「できた」といった喜びを味わったり、分からないことは質問したりして、意欲的に学習に取り組んでいた。



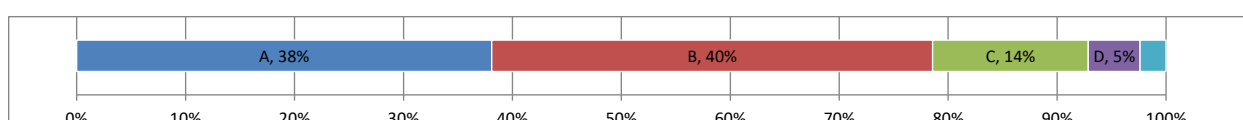
7 健康や安全に関する指導が適切になされていた。



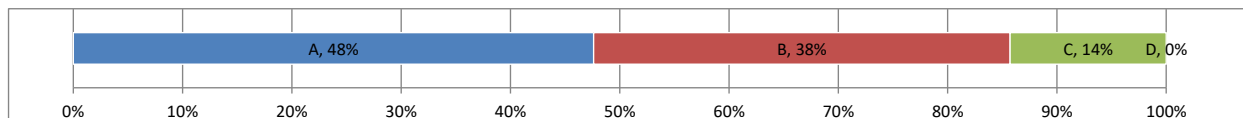
8 支援部を中心に、校内の個々のニーズに応じた相談や支援会議の設定、また、関連諸機関との連携などが適切に行われていた。



9 職員は、聴覚障がい教育の専門性を基盤に、どの子ども、「分かった」「できた」などと実感できる授業を行っていた。



10 職員は、新校舎の設備を有効に利用して教育活動に取り組んでいた。



11 職員は部間(幼小中高)で連携し、学校教育目標の具現に向けて取り組んでいた。

